

選考委員のコメント

○他の活動のために著作権について学ぶという通常の流れではなく、総合的な学習の時間のテーマとして著作権を取り上げた事例である。ややもすると著作権について調べて、まとめるだけの活動になりがちであるが、「実生活に生かす取り組み」を位置づけることで態度化が図られており、素晴らしい。

○学習内容を誰に伝えたいかをきっかけにその手法を考えさせる過程で著作権に気付かせている。WEBでの調べ学習、実生活におけるcマークを探すことも子供たちの興味関心のきっかけになるであろう。

○文章作成や虎の巻作成といった活動につなげていることは効果的である。5, 6年生で実践している校内体制も良いので、さらに全学年で系統的に実施するためのカリキュラムを作成してもらいたい。

○Web上の教材を活用し、著作権に関する制度の理解や著作権を尊重する意識の高揚に結び付けている点が良い。個々の教材の有効度に関する評価・考察もあると良かった。学習活動と学習による児童の変容がよくまとめられている。

○子供たちの実習活動が充実しており、ワークシートが豊富である。また、著作権のノウハウがよくまとめられている。

○5年生と6年生の先生が協力して、発達段階に合わせてよく練られた実践である。児童の実態から、①児童の関心をもたせ、②調べ学習を行い、③引用(5年)や虎の巻作成(6年)を通して生活に生かす、とてもいい流れの学習に仕上がっている。また、6年生の「調べたいこと」は、子どもらしさが自然に出ていて共感できる。懲りすぎているので、どの教員もすぐに実践できる普遍性が高く評価できる。

○身近な事例をもとにした課題の設定と学習したことを実生活に生かす教育に視点を置いたことは、著作権について理解を深めるためにかなり近道であったように思う。5年生にとっても6年生にとっても利用し易い実践事例である。情意面からも著作権を守ろうという意識が生まれてきたことは、大きな成果であると考えられる。

○5年生と6年生の発達段階を考慮した連続した学びとなっている。「5分でできる著作権

教育」も効果的に活用している。しかし、6年生の実践の3時間目「実生活に生かす取り組み」で、「著作権虎の巻」を作成するにとどまっているのが残念である。実生活に生かす実践を取り入れることにより、子どもたちの実践力が身につくのではないかと考える。